

研究課題名	東京都のNICU入院児における脳性麻痺発症状況の調査
研究機関名	東京大学、都立墨東病院、東京女子医大、葛飾赤十字病院、順天堂医院、東京医科歯科大学、東京女子医大東医療センター、愛育病院、日赤医療センター、昭和大学、聖路加国際病院、東京医療センター、慈恵医大、東邦大学大森病院、帝京大学、東京医大、慶応大学、都立大塚病院、国立国際医療センター、日大板橋病院、杏林大学、日医大永山病院、青梅市立病院、公立昭和病院、都立小児総合医療センター、武蔵野赤十字病院
研究責任者	所属 新生児科 氏名 蒲原 孝
研究期間	平成 26 年 10 月 ～ 平成 28 年 10 月
研究の意義・目的	背景： 新生児仮死による低酸素性虚血性脳症を原因とする脳性麻痺は、他の疾患を原因とする脳性麻痺と異なり、周産期医療システムの整備によりその発生を一部予防することが可能である。そのため、東京都の現行の周産期医療システムを評価するためには、その発生状況を知り課題を解析する必要がある。また、産科医療補償制度の施行により、その発症頻度とその推移を知ることが制度設計上重要となっているが、大都市圏での発生調査は過去に実施されていない。そこで、周産期因子に基づく脳性麻痺に限定されるとしても、その実態を東京都で調査することの意義は大きいと考えられる。 目的： NICU入院となった児における脳性麻痺発症の頻度を調査する。
研究の方法 (対象期間含む)	2012年に出生し、東京新生児研究会参加施設のNICUに入院となった児を対象とし、① 対象の1歳半の状況（外来、入院を問わず）を各施設で後方視的にカルテに基づいて調査する。② 脳性麻痺が確認されているか、疑われている症例を抽出する。③ その症例の情報をシートに記入する。在胎週数、出生体重、性別、母体合併症、母体妊娠合併症、NRFSの有無、院内出生・院外出生（出生病院）、Apgar score、UApH、新生児合併症、フォロー状況（入院中、外来、転院）、1歳半の神経学的所見（カルテ記載のとおりに記載。寝返り・座位・立位・独り立ち・独歩（体幹・下肢機能）、把握・保持（上肢機能）、あれば発達検査所見等、追跡の有無。④ 情報は匿名化し、東大周産期センターに送付する。
個人情報の取扱い	本試験の登録患者氏名は外部施設および外部の研究者に知られることはない。患者情報は連結可能匿名化のうえ、データベース化するものとする。
問合せ先	当研究に自分の情報を使用してほしくない場合等のお問い合わせ 〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 新生児科 氏名 蒲原 孝 TEL：0422-32-3111（代表）6813（事務局内線） FAX：0422-32-3525